

まちのにぎわいづくり一括助成事業 事業評価シート

作成年月日	平成21年2月12日	調書作成者	復興支援課 宮本
事業概要	採択年度	平成18年度	
	プロジェクト名	西宮中央商店街・にぎわい創出プロジェクト:えべっさんロードの再生	
	補助額	10,000,000円	
	事業実施団体	西宮中央商店街振興組合	
	事業期間	平成18年11月20日 ~ 平成20年6月15日	
	事業開始時の事業目的	平成14~16年に行われた阪神西宮駅南地区市街地再開発事業にあわせアーケード撤去・モール化事業を実施し、御影石による石畳舗装、ウッディーなコミュニティセンター、えびすステージ等の整備を行ったが、今回はこれらのハードを活かし、「お洒落で多様性に富んだえびっさんのまち:えべっさんロードの再生」を基本目標に、ソフトとハードを含めた総合的なまちのにぎわいを創出するプロジェクトに取り組むことを目的とする。	
事業実施状況	当初計画事業	当初計画どおり実施した事業	
	えべっさんロードの整備(地区内主要道路のユニバーサルな道づくりの実施)	(左の当初計画事業の番号を記載)	
	まち並み誘導ルールづくり(建築物等のデザインルールの策定等)	、 、 、 、 、	
	地区住民交流活動の実施(七夕まつり、児童画展示等)	当初計画から変更して行った事業とその変更理由	
	魅力を感じさせる「受け」づくり(店頭大型のれんの設置)	(左の当初計画事業の番号を記載)	
	空家活用の促進(空き店舗等を活用した拠点整備)	、	
	石畳の道やえびすステージを活用した活性化イベントの実施	(変更理由) については、市で土地利用適正化に関する指導要綱が制定されたため、独自でデザインルールを策定する必要がなくなったため。	
	「くくつ」人形芝居の運営展開	については、店頭大型のれんの設置に加え、提灯50個を設置した。	
	「街じゅう美術館」の開催	実施しなかった事業とその理由	
		(左の当初計画事業の番号を記載)	
	-		
	-		
	(理由)		
	-		

	当初計画していなかったが実施した事業とその理由・目的等
	商店街「新発見ガイド」マップの作成 「えびす福お面」せんべいの開発で試作品を製作
	(実施理由・目的) 戎参道を紹介し、そのお店への来客者アップを狙ってガイドマップを作成 戎参道の名物(土産物)を育てることによる商店街の活性化を狙う。

実施団体による自己評価

住民の関心が高まった、にぎわいづくりについて、新しい企画やアイデアが生まれるようになった、活動(会議等)の回数が増えた、新旧住民や世代間の交流が深まった、地域を越えた交流が深まった、人通りが多くなった等、地域のにぎわいづくりに効果があり、実施団体は事業結果に満足している。また、戎座人形芝居館は西宮の観光スポットになりつつある。

当初計画で設定した評価指標とその成果				
	定量的評価指標	従前数値	事業終了時の数値	今後の達成の見込み・時期等
指標の達成状況	指標1	空家店舗の活用	2件	1件 残る1件についてもテナント交渉中
	指標2	活性化イベント(夕暮れライブ等)開催件数	0回	16回 イベントは継続実施
	指標3	まちのにぎわいを考える話し合いの場	0回	43回 今後も事業推進会議を継続
	指標4	街並みの統一と魅力づくりとしての「受け」づくり	-	店頭大型のれん設置 6枚 提灯設置 50個
	各指標に対する評価	空家店舗の活用が事業実施により図られた。また、活性化イベントについても、多様なイベントが実施されている。さらに、にぎわい創出プロジェクトの推進にあたり、合計43回の推進会議を開催し、商店街のにぎわい創出を定期的に検討する場を持つことができ、事業終了後も会議は継続して開催されている点は評価できる。		
	定性的評価指標	従前	事業終了時	今後の達成見込み・時期等
	指標1	周辺地域への広報やイベントの実施により商店街への関心		浜脇小・中学校区からの客の増加
	指標2			
	指標3			
	各指標に対する評価	周辺地域から商店街への関心が高まったことは評価できるが、それがわかる客観的な指標が設定されることが望ましい。		

当初計画で設定されていなかったが達成度を評価できる指標とその成果		
	評価指標	成果
指標1	地域への情報発信	地域新聞「門前まちづくり」を発行し、約8,000枚を地域に配布。
指標2	商店街の平日通行量	H16に実施したとき(約4,000)と比較して、H20の通行量(約4,900)が増加した。
指標3		
事業実施によって事業終了後に残った成果		
成果1	戎座人形芝居館を人形劇の情報発信の拠点として活用することが出来るようになった。それにあわせて阪神間の人形劇団との連携が深まった。	
成果2	事業の推進にあたり、商店街、大学、商工会議所、コンサルによる事業推進委員会を設置し、毎週商店街の活性化について話し合う場ができ、それが事業終了後も継続している。	
成果3	地域新聞「門前町づくり」やイベント実施により地域住民の商店街への関心が高まった。	
成果を今後地域で継続させていくための方策		
<p>西宮市地域連携商店街モデル事業による助成を受けて、事業推進委員会を中心にして、商店街のまちなぎわいづくりの活動を継続して実施していくこととしている。</p> <p>また、戎座人形芝居館の運営については、大学の先生、地元自治会、婦人会、子供会、人形劇団、小中学校の代表により構成される運営委員会で運営の方向性を決定していく。</p>		
今後の課題		
<p>以下の4つの課題が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個店の努力と商店街全体としての「ビジョン共有」 マンション等の地域住民と商店街との連携強化 商店街としての店舗、施設構成の目標設定と誘導 来街者の更なる増加のためのしかけづくり 		
その対処方針		
<p>上記の課題に対して以下のとおりの方針で対応していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 店舗、施設構成の目標設定を含めた商店街全体のビジョンの作成及びその周知 マンション等の地域住民と商店街とのイベント等を通じた協働による連携強化 西宮神社の“戎参道”としての風情づくりによるまち並みの魅力づくり 周辺地域からの歩行者動線の強化 		

事業実施後の地域への波及効果、次なる展開

戎座人形芝居館の整備・運営により市内あちこちもしくは市外からも広域的来街者が増えるとともに、地域の歴史、文化を楽しむ機運が芽生えつつある。また、地区内マンション居住者等との連携を深めるため、生活サービス拠点としての機能を強化するとともに西宮南部浜方地域の文化ゾーンとしての役割を強めていく方向を模索していく。

地域のまちのにぎわいはどうなったか

戎座人形芝居館のイベント開催日や西宮神社の十日戎をはじめとする各種行事開催時にはある程度にぎわいが創出されているが、それ以外の日常の日々においては、駅前商業地としては「今イチ」の状況である。そのためにも今後も引き続きにぎわいづくりの取り組みを行っていく考えである。

事業実施に関する総合評価(委員会所見)

事業の目玉であった戎座人形芝居館の整備について実施でき、そこを拠点とした情報発信ができてい

る。
また、当事業の実施によって商店街のにぎわいづくりについて1週間に1回話し合う場が生まれて事業終了後もそれが継続して行われている。

当初予定していた事業についてもほぼ計画どおり事業が実施され、事業終了後も他の助成を活用することによって継続する仕組みができており、さらに、想定していなかった事業の展開が生まれるなどのプラス面も生まれており、事業実施内容について高く評価できる。